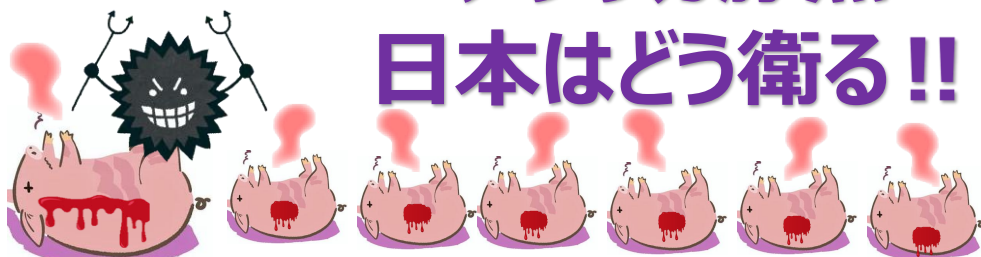
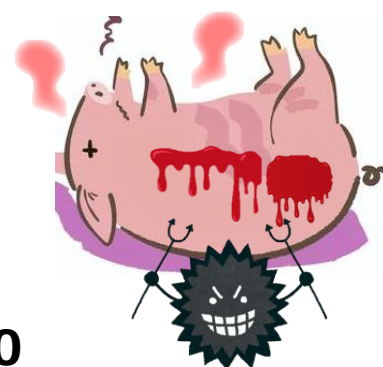




アフリカ豚熱 日本はどう衛る!!



■ 日時 2025年 **12月12日(金)** 13:30~16:30

※センター内に美味しいと評判のレストランがあります(11am open)。

※施設内にドミトリーがあります。宿泊希望の方はご相談ください。<https://sklv-soo.jp/about/stay/>

1. タイ、ベトナム、韓国におけるASF対策(仮)

講師 Dr. Jeong Hyunkyu (タイ王国コンケン大学 獣医学部、韓国Dodram養豚研究所)

2. ASFの日本への侵入・拡散リスク~(仮)

↳ (web講演)

講師 伊藤聡 (鹿児島大学共同獣医学部附属SKLVセンター)

3. ASFから養豚場を守るために出来ること(仮)

講師 伊藤貢 先生((有)あかばね動物クリニック会長/日本養豚獣医師会(JASV)代表理事)

- 場所 南九州畜産獣医学拠点(SKLV) (鹿児島県曾於市財部町南俣1343)
- ハイブリッド形式(対面:90名、web: 300名、要事前申込、どなたでも参加歓迎)
- 主催 鹿児島大学共同獣医学部附属SKLVセンター
- 共催 大隅総合開発期成会

★アフリカ豚熱(ASF)は日本にとって、

①国内に侵入すれば治療法・ワクチンがなく、致死率ほぼ100%、養豚場での大量安楽死措置が不可避となり、輸出停止や養豚関連産業の大損失となる。

②中国・韓国・東南アジアで流行が続き、観光客や貨物船の残飯、不法持込肉製品を介してウイルスが持ち込まれる可能性が高い。

③野生イノシシが長期的な感染源となり根絶が極めて難しくなる。

というリスクを抱える致命的脅威である。

★現在の日本の主な対策は、空港・港での違法肉製品の摘発強化(探知犬活用)、農場の防疫指導(消毒、野生動物侵入防止など)、ASFに関する訓練・監視体制の整備、監視対象地域での野生イノシシ調査である。

★特に南九州での野生イノシシの対策は、効率的な対策が求められる。本講演では、発生予防対策や発生時の対応方法を学びます。



お申込→



[12.12 SKLVセミナー \(ASF\)申込](#)

お問い合わせ: 鹿児島大学共同獣医学部附属 SKLVセンター

TEL : 0986-72-2090(代) E-mail : k2194954@kadai.jp (末吉)

